

からこだましてくる声が、向こうで歌われてるファドの  
声と重なったときに、なるほど、と感じました。でもや  
っぱりファドはリスボンの町で生まれて育った人にしか  
歌えないんじゃないか、これはたいへんだ、と思ってい  
る矢先に、ファドを東洋人が歌ってる、珍しいというこ  
とで、テレビに出たんですね。で、そんなことがあった  
あと、アマリアさんが久しぶりにカザ・ド・ファド（註：  
ファドを演奏する店）で歌ったんです。私は入口のとこ  
ろで小さくなりながらライブを聴いていたんですが、そ  
のときに、「テレビでこの前見たんだけど、日本の女性が  
ファドを歌っていて……」とおっしゃって。私が出てい  
るのがなぜわかったんだろう、と思うんですが（笑）、  
「じゃ、いらっしゃい」って呼び寄せてくださって、初め  
てお会いして、抱き合っ（笑）。そのあとでアマリアさ  
んのおうちに呼ばれたときは、私のCDを持っていった  
んです。アマリアさんの〈コン・ケ・ボス（どんな声で）〉と  
いう歌を日本語で歌ってるのを聴いて、一緒に歌って  
くださって。夢のような時間を過ごさせていただきました。

**濱田** 夢のようですね、それは。アマリアさんが70年代  
に日本へ来られたとき、私も親しくお話しさせていただ  
いたことがあるんですけど、とても気さくな方ですね。い  
い方ですね。じゃ、ファドの道に入られたのはやっぱり  
アマリアさんのレコードがきっかけで？

**月田** そうなんです。あの方の声はすごいですよね。〈暗  
いはしけ〉の出てくる“過去を持つ愛情”もフランス映  
画ですけど、アズナブルがアマリアさんのために〈愛  
に死す〉というのを作って……シャンソンであっても、  
やっぱりアマリアさんの声はすばらしいし。〈サマータイム〉  
なんか歌ってらしても、ゾクゾクする、っていうぐ  
らいすばらしい声で。

**濱田** そう、すべてがアマリアの歌になってね。

**月田** アマリアさんがポルトガルに生まれてファドを歌う  
ことで、そしてアマリアさんが海外に出ていくことで、  
ファドはずっと世界的になっていって。

**濱田** それはもう間違いないですね。アマリアがいなかつ  
たら、ファドがこんなに世界的に聴かれるということは  
なかったのかもしれないな。

**月田** そうですね、私もファドを歌うことはなかったと思  
いますし。

**濱田** 考えてみると、ユーラシア大陸の最果てのリスボン  
にファドみたいな歌がある、というのは、本当に奇跡の  
ようなことですね。歌い方や楽器の使い方のひとつの典  
型が、純粋な結晶のようにできあがってますでしょう？  
世界中の民衆的な歌を見渡してもまれに見る存在じゃな  
いかと思うんですね、ファドというのは。

**月田** 私はフォルクローレも好きなんですけれど、アルゼ  
ンチンのパンパ（大草原）やそこに吹く風とか土の匂い  
がないとユパンキの歌が生まれなかったように、ファド



もポルトガルの——リスボンの石畳とか朽ちた石壁とか、  
ベンベン草が咲いてるようなレンガの屋根とか、そうい  
うものがなかったら、そこに住んで素朴に身を寄せあ  
つて人たちがいなかったら、たぶん生まれてなかったん  
じゃないかと思うんですね。

**濱田** そうですね、背景がなければ、ファドもフォルク  
ローレも生まれてなかったでしょうね。でもおもしろい  
のは、アマリアにしてもユパンキにしても、“伝統そのもの”  
じゃないんですね。その上に作り上げられた、本当に  
個人的な大芸術なんです。でもそうなっても、ちっとも  
本質を裏切っていないところがすごいですよね。エッセ  
ンスというものはしっかり持って、しかもそれを磨き上  
げたというか、新しく造型したというのがすばらしいで  
すね。

**月田** 私もそう思います。ただ、いわゆるトラディショ  
ナルなファドを頑なに歌ってらっしゃる方もいます。そ  
れはそれで……。

**濱田** ええ、それはそれで必要なことですね。

**月田** ファドが持っている“変わらない”というエネル  
ギーも、またすごいな、と思います。

**濱田** ファドの場合は特に感じるな、それを。リスボン  
の下町に根を下ろした強さというか、純粋さというか……  
でもそういうものを月田さんは、本当によく知ってら  
っしゃるから。月田さんの新しいディスクに入っていた